

東海第二原発の再稼働を 東海村だけで決めないで！

東海第二原発は今どんな状態なの？

東海第二原発は今止まっています。3.11の地震・津波で冷却機能の一部を失い一時危機的な状態になりましたが、その後冷温停止し以来止まったままです。しかし日本原電は2014年5月20日、国に適合性審査の申請を出しています。事実上再稼働へ向けて動き出しており、現在はその審査中です。



これからどうなるの？

昨年から今年にかけて、鹿児島県の川内原発1.2号、福井県の高浜原発3.4号と加圧水型原発から順に再稼働しています。その手続きは立地している地元と県の同意だけで進み、周辺の市町村の意向は無視されたままです。一方東海村の村議会では再稼働容認の村議が多数を占めている状態です。仮に東海第二原発が審査に合格した場合、今の状況では再稼働する可能性があります。

福島事故ではどうだったか？

5年前の福島事故では原発が立地していた地元だけではなく30km圏の土地も濃厚に汚染され大きな被害を受けています。現実には被害を受けることが明確な周辺の市町村が再稼働の意思決定に参加できないのはおかしいと思いませんか？

では、どうすればいい？

東海村と
隣接5市



既に、東海村・隣接市町村の首長たちが集まり、日本原電に対して、東海第二再稼働の可否の意思決定に参加できるよう「安全協定の見直し」交渉に取り組んでいます。

これがきちんと実現すれば、東海村議会だけが先走って東海第二を再稼働の同意をしてしまう危険性に有効なハードルがかけられます。

6市町村の首長たちの動きを私たちも応援しましょう！

6首長をはじめ関係先に届ける署名運動を実施しています。ぜひご賛同ください。

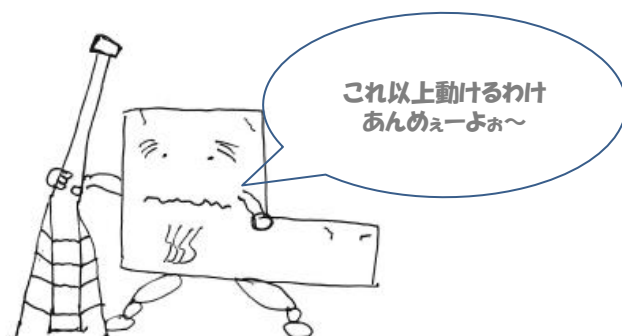
私たちの声を署名で届けましょう！

→茨城県・東海第二原発の「安全協定見直し」を支持する署名をチェック！

古すぎる！東海第二原発 60年動かすつもりなの？

原発の寿命は何年？

日本の原発の心臓部である圧力容器は設計技術者によって「40年使用を前提」に作られています。材料工学的にも寿命は40年と考えるべきであり、国の新規制基準でも40年を寿命とする事が決められています。



40年を超えて動かす「抜け道」制度がある？

しかし現在の規制基準には「抜け道」があります。特別点検に合格すれば一回に限り運転期間を20年延長できる、とするものです。そうすると40年+20年=60年に渡り古い原発を運転し続ける事ができるようになる。現実に関西電力によって古い高浜原発1.2号、美浜3号の延長運転の申請が出されました。

東海第二原発はどうするつもりなのか？

茨城県の東海第二原発は2018年11月をもって40年となり寿命をむかえます。しかし日本原電は運転再開を目指したいとしているものの国の審査は進んでいません。この状況では事実上プラス20年の運転期間延長申請をしなければつじつまが合わないのです。その判断をする時期は来年に迫っています。

東海第二原発の20年延長申請スケジュール



では、どうすればいい？

こうした申請が一度出されてしまうと既成事実のように運転期間延長が前提となってしまいます。東海第二原発は一度被災した原発です。運転期間延長は危険を伴います。日本原電と自治体にこの動きに反対する声を署名で届けます。ぜひご賛同ください！

私たちの声を署名で届けましょう！

→茨城県・東海第二原発の「20年延長申請」に反対する署名をチェック！